

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 92 号

2018 (平成30) 年12月15日 (土)

『特性を活かした幼児教育』

寺子屋・こども論語塾 塾生 道端 敬子

幼児期に身につけさせたい事の一番は誰しもが「基本的な生活習慣」と考えることでしょう。挨拶、返事、食事の仕方、洋服の着脱、排泄の仕方、健康・安全など、多種多様です。簡単なようでとても難しいのは、徹底する事、続けることが大事だからです。曖昧な物言いや言ったり言わなかったりでは、殆ど身につきません。しかし、「三つ子の魂百まで」と言われるように一旦身につくと一生ものです。

私はこの歳と並行して大事な事に「言葉の教育」をあげたい。人間は言葉を使って物事を考え理解します。子供との指導のやり取りには全て「言葉」が介在します。物事を考える時も言葉が必要です。考えた事を伝えるのも言葉です。その言葉を最も効率的に身につける時期が乳幼児期です。特に幼児期は見たもの聞いたものを丸暗記する能力が非常に高い時期です。この貴重な時期に正しい言葉や美しい言葉を吸収させることが大切だと考えています。言葉は人を育てる役目が大ですが、最近人は人を駄目にする事が増えています。

幼児教育の世界では、「子供は自由で伸び伸びと遊ばせておくことが何より大切なのだ」と考えて、文字を読ませたり、書かせたりするのは、とんでもないことだという、頑とした考え方があります。かなり根強く広く行き渡っています。しかし現実の子供たちを見ますと、多くの子供たちは喜んで文字を覚え書いています。それは、先にも言った通り、何でもやりたい、したいという旺盛な時だからです。

私達はその幼児期の言葉の教育を「石井方式・幼児からの漢字(国語)教育」を使って行っています。日本語を正しく深く理解する為には漢字が必要です。幼児期の子供たちは漢字を図形のように記憶しますから特性を活かし何の苦労もなく憶えていきます。

有意義な冬休みを送りましょう!

今年(ことし)は地震・台風など大変な災害に見舞われましたが、残すところ後2週間余りとなりました。塾生(じゅくせい)のみんなは、まもなく冬休みに入りますが、ややもすると希薄(きはく)になりがちな親子の対話(たいわ)が一層深まることを期待(きたい)しています。この一年間(いちねんかん)本当(ほんとう)にお世話(せわ)になりました。どうぞよいお年(とし)をお迎え(むか)ください。

【お知らせ】

この一年間(いちねんかん)を通して、孔子(こうし)の教えである「仁(に)の心(こころ)」を実践(じっせん)、可能な限り出席(しゅっせき)し続けて頑張(がんば)った5名(めい)の塾生(じゅくせい)、矢幅友耀君(やはばゆうきくん)・光田雪花さん(みつたゆきか)・藤寫果歩さん(ふじしまかほ)・永井みすずさん(ながい)・山本彬君(やまもとあきらくん)に努力賞(どりよくしょう)を授与(じゅよ)します。また、今年(ことし)は高校受験(こうこうじゅけん)、部活動(ぶかつどう)等で塾(じゅく)への参加(さんか)は難(むずか)しくなりましたが、論語章句(ろんごしょうく)の毛筆書写(もうひつしよしや)を続けてくれた藤寫梨乃さん(ふじしまりの)に感謝状(かんしゃじょう)を贈呈(ぞうてい)します。更に今年(ことし)の塾長賞(じゅくちやうしょう)は、安藤凛さん(あんどうりん)に決定(けつてい)しました。入塾(にゅうじゅく)早々(そうそう)の暗記素読大会(あんきそどくたいかい)に出場(しゅつじやう)し、その後も積極(せっきよく)的な姿勢(しせい)を貫(つらぬ)き、骨折(こっせつ)にもめげずに松葉杖(まつばづえ)で出席(しゅっせき)して頑張(がんば)り続けています。